

## 平成28年度桜門体育学会大会報告

# 大会報告

日本大学 経済学部 専任講師 平木 貴子

### 1. 大会概要

平成28年度桜門体育学会大会(第7回大会)は、平成29年1月22日(日)日本大学文理学部3号館にて開催された。本大会では、一般発表、学会企画シンポジウムが行われた。

一般発表は、3号館1階カフェテリア秋桜にて、すべてポスター発表形式で行われた。本大会の一般発表演題は、学生26題、大学院生7題、教員・その他4演題、合計37題の研究が報告された。一般発表の前半では、発表演題を3ブロックに分け、各ブロックの座長の進行により各演題3分間の口頭発表を行い、後半は前半の口頭発表に基づくフリーディスカッションが行われた。フロアには体育学科の教員だけでなく、他学部・他大学の教員やOB・OGも参加いただき、活発な議論がなされた。発表者、特に大学院生や体育学科学生は、各自の研究成果を指導教員にだけでなく、他の学問領域や他学部の教員、OB・OG、大学院生、他大学の学生や教員に発表する機会となり、有意義な情報交換や意見交換の場となったようである。

学会企画シンポジウムでは、リオデジャネイロオリンピック柔道100kg超級 銀メダリスト 原沢久喜氏(JRA)、本学柔道部にて原沢氏を指導された金野潤氏(日本大学文理学部体育学科 准教授)、リオデジャネイロパラリンピック競泳4種目にて銀・銅メダルを獲得した木村敬一氏(東京ガス)、木村氏のパーソナルコーチであった野口智博氏(日本大学文理学部体育学科 教授)の4名をシンポジストとして、「Rio 2016からTokyo 2020に向けて～アスリートとコーチの視点から～」というテーマで話題提供いただいた。リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックまでのメダル獲得に向けた取り組みの成果と課題、さらには東京オリンピック・パラリンピックに向けた展望について活発な議論がなされた。

本大会では、昨年度から引き続き、一般発表におい

て優秀な研究発表に対しての表彰が総会時に行われ、3名の発表者に学会大会賞が授与された。

本大会の開催にあたり、準備、運営を担っていただいた学会事務局はじめ、本大会組織委員と関係者の皆様、お手伝いいただいた大学院生の皆様に書面にてお礼申し上げます。

### 2. 大会内容

#### ① 一般発表(ポスター) 3ブロック37演題

座長:

村越雄太(日本大学経済学部)

野崎真代(日本大学工学部)

種ヶ嶋尚志(日本大学スポーツ科学部)

#### ② 学会企画シンポジウム

「Rio 2016からTokyo 2020に向けて～アスリートとコーチの視点から～」

シンポジスト:

原沢久喜(JRA; リオデジャネイロオリンピック柔道100kg超級 銀メダリスト)

金野 潤(日本大学文理学部体育学科 准教授; 日本大学柔道部監督, 全日本柔道連盟強化委員長)

木村敬一(東京ガス; リオデジャネイロパラリンピック競泳 銀・銅メダリスト)

野口智博(日本大学文理学部体育学科 教授; 日本水泳連盟科学委員)

司会:

水上博司(日本大学文理学部体育学科 教授)

#### ③ 理事会

#### ④ 総会

#### ⑤ 懇親会